

## 今回出された成績について

レポート2回(25点×2)と試験(50点)で評価している。レポートについては、書き方がわかっていない学生が多く、特に1回目の評価がどうしても低くなる(コメントをつけて返すことで、2回目は改善される)。書き方指導をしたいと思うが、授業の趣旨からして適切でなく、断念している。初年次演習における習得を期待したい。試験に関しては、「まとめ」の部分から穴埋め方式で出題している。出題範囲が明確なため平均点が高く、今のような暗記型の試験でよいのか、今後再検討していきたい。

試験を実施したのだが、予想していたよりも良くできていたので、良い成績がついた人が多かったように思う。

今回の学業成績については、試験・提出物・出席状況等を総合して評価した。学業成績は、試験の結果だけでなく、課題レポートや出席状況・日頃の受講態度なども加味して、総合的に評価していくことが必要であると考えます。

2クラス合計で104名の受講者のうち、Dが4名いた。  
授業に出席(きちんと受講)しプリントを学習していれば単位は取れたはずなので、とても残念である。

毎回のコメントとテストの結果に基づいて客観的に評価した。

クラス毎に理解力の量的、質的な差があり、説明の詳しさや、具体例の選択などに配慮したが、講義は学生との相互作用であり、授業者個人の工夫だけでは解決しきれなかった。とはいえ、クラス毎に扱う内容や評価基準を変えるのも、教員免許に関わる講義として一定の水準を保つ必要から適切であると考えられず、厳しい状況となったクラスもあった。

また、認知心理学を中心とする教授学習過程について扱っているため、人の心(思考、感情)という抽象的な対象について理解を求めざるを得ず、毎年苦心している。特に、教師という対人援助に関わる仕事につくことを目指しているにもかかわらず、人の心について考えることが苦手な学生をどのようにとらえたら良いのかは悩ましい。

教員養成のための高等教育機関において学習していることから、各受講生の視野に偏りがあるように感じられた。  
定期試験で課した課題に対する回答は、いずれも評価点を強く意識した意見が多く、一般論としてある一定の枠に入る論述内容が多いように見受けられた。

多くの学生は、熱心に出席し課題についても誠実にこなしている。成績評価については、まじめに取り組んでいる学生が正当に評価されるように心がけている。一つ、より高い要求をするなら、求められた時に毎回課題を提出する学生は多いが、もう一つ高い視点で、また深く考察をして記述をするとよりよい学びにつながり、成績にもつながる学生が少なからずいた。次回以降、教員からも働きかけたい。

・SやCがあまり多くならないよう、バランスを考えた。  
・最終的に1人だけ単位認定が出せなかった。再終レポートが提出期限までに出せなかった学生が全体で7名いたため、総務課からメール配信により、提出を促したところ6名は提出できたのでぎりぎり単位認定をした。

1年生が初めて受講する講義であることを考え、成績は全体的に甘くつけている。  
愛教大の学生さんはおおむね真面目で、理解力も高いと感じているが、その分ごく一部のやる気が低かったり、受講態度が悪い学生が目立っている。そのような「特にやる気のない」学生について、どのように評価すべきかについては悩ましかった。

中間小テスト30%、期末レポート70%の比率で成績評価を行った。中間小テストでは、あらかじめ試験内容のポイントを示し、教育における基礎知識や重要事項への理解がどの程度身についているか、確認することを目的とした。しかしながら、一部に事前準備が不十分だったと考えられる受講生も散見され、試験後、期末レポートの評価は厳密に行うことを再度徹底した。

おもに教育相談分野の授業であるため、授業内にて、ディベートやディスカッション、意見表明なども授業の構成要素ではあったが、1クラスの数が多いため、これらのことを評価しづらいのが残念である。本授業は4年生向き授業であるが、教員にならないことを決めている学生は教育相談に関心を持たない場合も多い。興味を持たない、参加意欲の少ない学生がクラス全体の学ぶ姿勢を低下させないようにする必要を感じる。

夏野菜の栽培活動を体験してもらい、実際に教師として指導するとき、「一度やったことがある」といった自信をもって臨んでほしいと思っている。したがって、出席点を全体の半分程度とした。また、栽培活動で身に付けたこと(知識)や教育的意義について、学期末に記述させた。B以上の学生がほとんどで、概ねねらいは達成できていると思う。

同じ授業を行ったが、クラスによって評価が異なる。特に、評価が低めのあるクラスでは授業が3限目のためか最初の方で昼を挟んでの寛ぎの私語が続き、昼食を取るなどの行為があり、注意することによって授業の雰囲気は少々損なわれ、予定したように進まない場合もあった。また、別のクラスでは最初から熱心に聞き入り必ず質問をして来るなど、全体として均一に授業を進めることは難しい面もあるが努力したいと考える。具体的には前者のクラスの様な場合、私語など授業に差支えが生じるような行為に関して、学生への注意や指導はできる限り冷静にまた状況説明を入れて理解を図り、気持ちの切り替えを早くできるように指導していきたいと考える。全体としては授業の内容を伝えることは達成されていると思われるものの、上記の点を含めて幾つかの点で改善が求められると考える。

例年どおり、テストとレポート、およびビデオを観た感想など、多面的に評価した。

・グループワークのウェイトを重くしたため、グループが提出した課題に対する評価が、個人の評価にもなってしまう。この場合、グループ内の個人毎の学習達成程度に対する評価があいまいになってしまう。例えばグループの中で一部の学生が学習に対して意欲的でなくても、他の学生の活躍によって班全体の達成は高くなるということがある。この点をどうすればよいか課題として残されている。

・受講生が児童生徒の学校適応を巡る問題に対する理解の視点を獲得し、対応方法の選択肢を拡充できることを期待して、複数の観点から総合的に評価しました。

評価の一つであるグループディスカッションについては、受講生全員とても積極的に取り組み、回を重ねるごとに自分なりの課題を見つけ、成長できていたと感じている。また、知識面でも学んだ内容について大部分が十分理解できていた。

しかし最終課題で課した論述問題について、事前に自分なりに考えてくるように伝えしたが、どうしても自分の経験や講義内容、あるいは一般論として言われているような表現に終始している学生が少し目立ったように感じた。

これまでに学んだことをつなげて自分の考えを創り上げることももちろん大切であり、その力の育成も本講義の目標の一つではあるが、さらにそこから自分でアンテナを広げ、調べたり考えたり行動した上でレポートを作成する学生がもう少し増えるとよいと感じた。

課題の意図がわかりにくいことがあるので、意図をわかりやすく伝えるような課題文や説明になるように、工夫・改善が必要であると考えている。